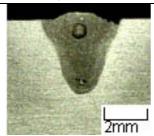
## レーザ溶接欠陥1

## パルス溶接によるアルミ ニウム合金のポロシティ 抑制

ポロシティ

①欠陥:ポロシティ



- 1)アルミニウム合金をレーザ溶接したところ、溶接ビード内にポロシティが発生した。
- 2)ポロシティを有するビードの機械的強度は弱い

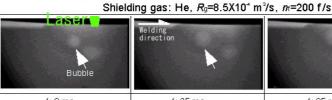
②製品と加工条件

1)製品: -2)材料: A5083

- 3)使用レーザ: YAG レーザ (最大加工点出力 3.5kW)
- 4)加工条件:3 kW(cw)、溶接速度 10 mm/s、 シールドガス He
- 5) その他: ビード・オン・プレートで実験

## ③原因

A5083 (6 mm"); Bead welding, YAGlaser,  $P_1$ =3.5 kW, v=10 mm/s,  $f_0$ =0 mm (f=200 mm),



Keyhole 2 mm Porosity 2 mm (+260 ms

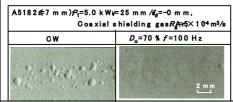
ポロシティ内のガス成分

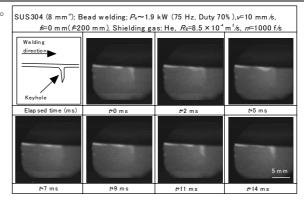
A5083: shield gas;He		
$\mathrm{H}_2$	He	$N_2$
0.57%	99.5%	0.17%

- 1)X 線透視観察結果によると、ポロシティは、移動中の気泡が凝固壁にトラップされて残留したものである。
- 2)溶融池内の気泡は、不安定に変動するキーホール変動するキーホール先端部から形成され、内部にはシールドガスや金属蒸気を含んでいる。

## 4)対策

- 1)連続発振(cw)をパルス発振(pw)に変更した。
- 2)キーホールの生成/消滅がパルスの周期と一致し、キーホールからの気泡の発生が起きなくなった。(X線写真はステンレス鋼のもの。アルミニウム合金でも同様な効果を確認)
- 3)溶接後のポロシティ数はパルス溶接では 0になった。





キーワード

情報提供 (敬称略): 瀬渡直樹 (産業技術総合研究所)